

千石荘の昆虫（2011 年度調査）

岩崎 拓（貝塚市立自然遊学館）

はじめに

貝塚市の中央部で唯一まとまった里山里地の景観が残されている千石荘一帯ではこれまでに、大阪府レッドデータブック（大阪府、2000）で絶滅危惧Ⅱ類に指定されているネアカヨシヤンマとマルタンヤンマ、準絶滅危惧に指定されているベニイトトンボ、ナニワトンボ、ネキトンボ、ヤスマツアメンボ、要注目に指定されているクルマバッタをはじめ、貴重な昆虫の生息が確認されている（岩崎、2012）。自然遊学館の記録では、昆虫以外にも、哺乳類 1 種、鳥類 10 種、淡水貝類 1 種、植物 3 種の大阪府レッドリスト種が確認されていて、和泉葛城山と並んで、貝塚市内では貴重な動植物の生息場所になっている。千石荘では、2005 年と 2006 年に定期的な調査を行われてから（岩崎、2006、2008）、しばらく期間があいたので、2011 年に調査を再開することにした。

調査方法

貝塚市名越、橋本、および熊取町七山北にまたがる全長約 1.2km の周回コースを設定し（図 1）、2011 年 4 月から 12 月まで、月に 1 回のペースで、合計 9 回、雨の日を避けて調査を行った。千石荘調査地は、メッシュコード（環境庁、1997）が 51354299、標高は約 45～65m の間である。

調査ルートは、千石荘ロータリー付近から雑木林に挟まれた西へ延びる道を抜け、水田地帯の中を南に下り、ポタン池の北西辺の土手を通り、雑木林に入り、牛神池の東辺を通過し、再びスタート地点へ戻るコース（図 1）を設定した。そのコースを約 2 時間かけて歩き、主に見取り法および鳴き声の確認によって昆虫の記録をとった。また、植物上に形成されたゴール（虫えい）に関しても、その形状から寄生者の同定を行いリストに加えた。

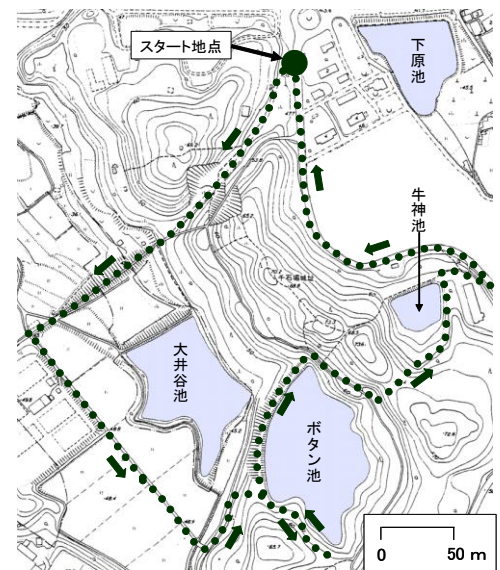


図 1. 千石荘における昆虫調査ルート

点線が歩行ルート（全長約 1.2km）、矢印が進行方向を示す。

結果および考察

4 月から 12 月にかけての 9 回の調査において、合計 11 目 99 科 249 種の昆虫が確認された（表 1、科や属レベルで同定を留めたものも 1 種として数えた）。目ごとの種数は、トンボ目 13 種、バッタ目 32 種、カマキリ目 4 種、ゴキブリ目 2 種、ナナフシ目 1 種、カメムシ目 56 種、アミメカゲロウ目 3 種、コウチュウ目 46 種、ハエ目 30 種、チョウ目 35 種（うちチョウ類 25 種）、ハチ目 27 種であった（表 1）。以下、主な目の結果について、簡単な解説を行った。

表1-1. 千石荘において2011年4月から12月にかけて確認された昆虫のリスト1

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認、「鳴」印は鳴き声での確認を、それぞれ示している。カマキリ目に関しては、個体数も示した。

目	科	種	4月 26日	5月 18日	6月 15日	7月 14日	8月 9日	9月 22日	10月 11日	11月 9日	12月 1日	
トンボ目	カワトンボ科	ハグロトンボ					○					
		アオイトトンボ			○	○	○					
		オオアオイトトンボ								○		
	イトトンボ科	キイトトンボ				○						
		アオモンイトトンボ					○					
	トンボ科	シオカラトンボ		○		○	○					
		オオシオカラトンボ				○	○					
		ショウジョウトンボ				○						
		アキアカネ									○	
		フシメトンボ					○					
		コシアキトンボ		○	○	○	○					
		ウスバキトンボ				○	○					
チョウトンボ					○	○						
バッタ目	コロギス科	コロギス			○		△					
		ツコムシ						○				
		セスジツコムシ							○		○	
	キリギリス科	クビキリギリス		○				△				
		オナガササキリ						○	○	○		
		ホシササキリ				○	○	○	○			
		ウスイロササキリ				○		○	○		○	
		ササキリ				△	△	○	○			
		ヒメギス			△							
		キリギリス			△	鳴	鳴					
	ササキリモドキ科	ヤブキリ		△	△	△	鳴	△				
		ササキリモドキ亜科										
コオロギ科	ツツシセセコオロギ							鳴				
	モリオカメコオロギ							○	○	○		
	ハラオカメコオロギ							鳴	鳴			
	エンマコオロギ							鳴	○	鳴		
マツムシ科	マツムシ								鳴			
	アオマツムシ							鳴	鳴			
	カンタン							鳴	○			
	ヒロハネカンタン							鳴				
ヒバリモドキ科	クサヒバリ						△	鳴	○	鳴		
	キンヒバリ			鳴	鳴	鳴						
	カヤヒバリ		△	鳴	鳴							
	マダラスズ							鳴	鳴	鳴		
	シバズ							鳴	鳴			
カネタタキ科	ウスグモスズ						○					
	カネタタキ						△	鳴	○	鳴		
	ツチイナゴ		○		○			△	△	○		
	ショウリョウバッタ					△	○					
バッタ科	クルマバッタモドキ					△	○					
	マダラバッタ					△	○	○	○			
	ヒシバッタ属						○					
	テリキ						○					
カマキリ目	カマキリ科	オオカマキリ	△1	△2	△18	△6		♂2♀1	♂1♀4	卵2		
		チョウセンカマキリ			△5							
		ハラビロカマキリ							♀1			
		コカマキリ								♂1♀1		
ゴキブリ目	チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ				○	○					
		ヒメクロゴキブリ			△							
ナナフシ目	ナナフシ科	ナナフシモドキ	△		△							
カメムシ目	セミ科	ニイニゼミ					鳴	鳴				
		アブラゼミ					鳴	鳴				
		クマゼミ						鳴				
		ミンミンゼミ						鳴				
		ツクツクボウシ							鳴	鳴		
		ハマバアワフキ					○					
		シロビアワフキ					○	○				
		コガシラアワフキ					○					
		ヨコバイ科	オオヨコバイ						○	○		○
			ツマグロオオヨコバイ						○	○		
			クワキヨコバイ属	△	○	○						○
			ツマグロヨコバイ						○			
ヒシウンカ科	タケナガヨコバイ									○		
	オビヒメヨコバイ							○				
	gen. et sp.											
	ヒメトビウンカ						○	○				
グンバイウンカ科	ミドリグンバイウンカ						○	○				
	アオハハゴロモ						○	○				
ハゴロモ科	ベッコウハゴロモ				○	○						
キジラミ科	ベニキジラミ				○							
	トガリキジラミ											
アブラムシ科	ニツケイトガリキジラミ	ゴール										
	クストガリキジラミ	ゴール										
	セイジツクワチウヒガナアブラムシ			○	○							
	ハゼアブラムシ			△	○							
アブラムシ科	ヤノクチナガオアブラムシ	△	○	○	○	○	△		○			
	エノキワアブラムシ		○		○							
	ミカンミドリアブラムシ					○						
	ヌルデシロアブラムシ								○			
サンガメ科	ヨコゾナサンガメ				○							
	シマサンガメ				○							
カスミカメシ科	クロヒョウタンカスミカメ				○	○						
	ズアカシダカスミカメ						○					

表1-2. 千石荘において2011年4月から12月にかけて確認された昆虫のリスト2

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

目	科	種	4月 26日	5月 18日	6月 15日	7月 14日	8月 9日	9月 22日	10月 11日	11月 9日	12月 1日
カメムシ目	カスミカメムシ科	コブヒゲカスミカメ	○								
		クスギトビカスミカメ		○							
		ヒメセダカカスミカメ					○	○			
		アカスジカスミカメ			○						○
		ウスモンドリカスミカメ									○
		ホソミドリカスミカメ属									○
		アワチソウゲンバイ			○	○	○				
		ヘクソカズラゲンバイ						○	○		
		ナンゲンバイ					○		○		
		アオモンツノカメムシ			○						
ツノカメムシ科	カメムシ科	シラホシカメムシ				○					
		マルカメムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	
マルカメムシ科	イトカメムシ科	イトカメムシ	○								
		Nysius属									○
ナガカメムシ科	カメムシ科	ヒメオオメカメムシ					○				
		オオメカメムシ			○		○			○	
		コバネヒョウタンナガカメムシ	○				○				
		ホソコバネナガカメムシ			○						
		メダカナガカメムシ			○				○		
		オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ				○				
		ホソヘリカメムシ科	カメムシ科	クモヘリカメムシ					○		
				ホソヘリカメムシ						△	
		ヒメクモヘリカメムシ					○	○			
		ホシハラビロヘリカメムシ						○	○	○	
アメカゲロウ目	クサカゲロウ科	ヨツボシクサカゲロウ		○							
		ホソハラヒメカゲロウ	○								
コウチュウ目	ラクダムシ科	ラクダムシ		○							
		ハンミョウ科	コハンミョウ					○			
		オサムシ科	セアカヒラタゴミムシ					○			
			アトボシアオゴミムシ			○					
		ハネカクシ科	クワガタムシ科	アオバアリガタハネカクシ							○
				クワガタ					○		○
		コガネムシ科	カメムシ科	ビロウドコガネ						○	
				コイチャコガネ						○	
		マメコガネ			○	○					
		セマダラコガネ					○				
カナブン					○	○					
コアオハナムグリ			○	○	○		○				
タマムシ科	カメムシ科	クスノチビタマムシ		○							
		ダンダラチビタマムシ	○								
ナミガタチビタマムシ			○								
ヒシモンナガタマムシ			○								
ナガタマムシ属		○		○							
コメツキムシ科	カメムシ科	アカアシオオクシコメツキ		○	○						
		クロクシコメツキ		○	○						
ジョウカイボン科	カメムシ科	ジョウカイボン					○				
		ニセキベリコバネジョウカイ			○						
カツオブシムシ科	カマキリタマゴカツオブシムシ	△									
ケシキスイ科	テントウムシ科	ヨツボシケシキスイ					○				
		コクロヒメテントウ	○	○			○				
ナナホシテントウ		○	○								
ヒメカメノコテントウ				○	○						
ニジュヤホシテントウ						○					
ゴミムシダマン科	キマワリ					○	○				
カミキリモドキ科	モモトカミキリモドキ	○									
カミキリムシ科	カメムシ科	キクスイカミキリ		○							
		ヒメクロトラカミキリ	○								
ゴマダカミキリ					○						
ハムシ科	カメムシ科	トホシクビボソハムシ	○								
		ヤマイモハムシ				○					
		クロオビカサハラハムシ					○				
		カサハラハムシ			○	○	○				
		ヒメキバネサルハムシ			○						
		クロウリハムシ	○	○	○		○				
		ウリハムシ		○							
		ルリナガストビハムシ			○						
		ヒメジンガサハムシ		○							
		ヒメクロオトシブミ		○							
オトシブミ科	アポデラスエリトシブミ		○								
ゾウムシ科	カメムシ科	カシワクテゾウムシ		○							
		トゲハラヒラセクモゾウムシ		○							
オジロアシナガゾウムシ			○		○						
チビシギゾウムシ属							○				
カシワノミゾウムシ				○							
ハエ目	キノコバエ科	gen. et sp.	○								
		キリウジガガンボ		○			○				
ガガンボ科	ヨモギワタタマバエ						○				
タマバエ科	エノキトガリタマバエ					○					
カ科	ヒトスジシマカ						○				
ユスリカ科	カメムシ科	オオユスリカ						○			
		gen. et spp.	○	○	○						
ミスアブ科	ハラキンミズアブ			○			○				
Actina属		○									
シギアブ科	キアシキンシギアブ		○								
ムシヒキアブ科	アオムシヒキ				○						

表1-3. 千石荘において2011年4月から12月にかけて確認された昆虫のリスト3

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

目	科	種	4月 26日	5月 18日	6月 15日	7月 14日	8月 9日	9月 22日	10月 11日	11月 9日	12月 1日	
ハエ目	アシナガバエ科	マダラアシナガバエ			○							
		ホソヒラタアブ			<i>Episyrphus balteatus</i>			○	○	○		
	ハナアブ科	ホソヒメヒラタアブ			○	○				○		
		タカサゴハラフトハナアブ						○				
		ハチモドキハナアブ					○	○				
		アシフトハナアブ		○	○	○						
		オオハナアブ									○	
		シマハナアブ										○
		ツマグロコシボリハナアブ				○						
		クロヒラタアブ属										○
		ホシアシナガヤセバエ					○					
		ハルササハマダラミバエ		○								
		ヒラヤマアミメケブカミバエ										○
		ネツタイヒメクロミバエ										○
		シマバエ科	ヤブクロシマバエ							○		
		ヤチバエ科	ヒゲナガヤチバエ								○	○
		クロバエ科	ツマグロキンバエ			○					○	
	Lucilia属					○						
	カマキリヤドリバエ			卵								
チョウ目	アゲハチョウ科	ナミアゲハ		○	○	○	○		○			
		クロアゲハ			○		○					
		ナガサキアゲハ				○	○					
	シロチョウ科	アオスジアゲハ			○	○	○	○				
		キチョウ (キタキチョウ)		○	○	○	○		○			
		モンキチョウ			○	○						
		ツマキチョウ		○								
		モンシロチョウ		○	○	○	○	○	○	○	○	
		ヒメウラナミジャノメ			○	○	○	○	○			
		ヒカゲチョウ					○		○	○		
タテハチョウ科	サトキマダラヒカゲ			○	○		○	○				
	クロヒカゲ			○		○						
	ヒメジャノメ				○				○			
	クロノマチョウ			○					△○	○		
	ツマグロヒョウモン				○				○			
	アサマイチモンジ				○							
	コムシジ				○	○	○	○				
	ゴマダラチョウ							○				
	テングチョウ		○									
	シジミチョウ科	ウラギンシジミ						○		○		
		ベニシジミ						○				
		ヤマトシジミ				○	○	○				
	セセリチョウ科	ツバメシジミ		○	○			○				
イチモンジセセリ						○	○	○		○		
ミノガ科	チヤバネセセリ							○	○	○		
	キノヒモミノガ									養		
ツトガ科	シロオビノメイガ					○	○			○		
	モンキクノメイガ						○					
ツバメガ科	マルバネフタオ							○				
カレハガ科	タケカレハ							卵				
ドクガ科	マイマイガ											
	ゴマフリドクガ			△								
カノコガ科	カノコガ				○							
	ウンモンクチバ属			○								
ヤガ科	フクラスズメ			△						△		
ハチ目	ミフシノバチ科	アラスジチュウレンジ										
		ハバチ科	セグロカブラハバチ		○	○						
	ベッコウバチ科	ベッコウバチ					○					
		ツチバチ科	キンケハラナガツチバチ							○	○	
	スズメバチ科	キボシアシナガバチ						○				
		セグロアシナガバチ				○	○	○				
	アリ科	オオスズメバチ				○			○	○	○	
		スズバチ										
		ヒメアリ		○			○	○	○			
		キイロシリアゲアリ								○	○	
		ハリフトシリアゲアリ		○	○	○						
		ムネボソアリ		○	○	○	○	○				
		アミアリ			○	○	○	○	○			
		トビイロシワアリ				○						
		ルリアリ		○		○	○			○	○	
		クサアリモドキ			○			○			○	
	ミカドオアリ		○									
ウメマツオアリ		○	○	○	○	○	○	○	○			
クロヤマアリ						○						
トビイロケアリ		○	○		○	○		○				
アメイロアリ		○			○	○	○					
アナバチ科	ミカドツガバチ						○					
ヒメハナバチ科	ヒメハナバチ属		○	○								
コシトハナバチ科	クマバチ		○	○								
	シロスジヒゲナガハナバチ			○								
ミツバチ科	ニホンミツバチ		○						○			
	セイウミツバチ			○								

トンボ目

千石荘ではこれまでに、大阪府レッドデータブックの指定種として、絶滅危惧Ⅱ種のマルタンヤンマ、ネアカヨシヤンマ、準絶滅危惧のベニイトトンボ、ナニワトンボ、ネキトンボが確認されてきたが（岩崎、2012）、今回の調査ではいずれも確認されなかった。全国的に減少傾向にあると言われるアキアカネ（図2）は、2005年と2006年の調査に引き続き確認された。

バッタ目

大阪府レッドデータブックで要注目種に指定されているクルマバッタは、石井ほか（1997）では、「多数目撃され、この環境が安定して保たれていることが示唆された」と報告されているが、2005年と2006年の調査では確認されず、今回の調査でも確認されなかった。同じく草原的な環境を代表するショウリョウバッタモドキも、2006年と今回の調査では確認されなかった。2006年の調査結果から考察されたように、二次林の遷移、畦の整備、ため池の改修工事のために開けた草原が減少することによって、両種とも減少してしまったものと考えられる。秋の鳴く虫の代表であるマツムシとカンタン（図3）は、2005年、2006年に引き続き確認された。ウスグモスズは貝塚市内ではこれまで二色の市民の森公園だけで確認されていたが、今回、千石荘でも確認された。

カメムシ目

4月26日、エノキの樹幹にトビイロケアリの蟻道を見つけ、その一部を壊すと、ヤノクチナガオオアブラムシが共生していた（図4）。その後の調査でも確認され続けている。和名の通り口吻がきわめて長い種で、固いサクラの樹皮からでも吸汁でき、それが出す甘露はトビイロケアリにとっては餌の供給源になっている。反対に、アブラムシの側から見れば、トビイロケアリの蟻道の覆いによって、外界から見えないように保護されていることになる。自然遊学館に標本がなかった種であるが、貝塚市内の他の場所でもアリが樹幹につくる蟻道内を探せば、見つかるかもしれない。

アミメカゲロウ目

貝塚市内でこれまで蓄原でしか確認されていなかったラクダムシが5月18日の調査で確認された（図5）。自然遊学館の貝塚産標本としては2個体目となった。

コウチュウ目

2005年と2006年に確認されていたヒラタクワガタとカブトムシは、今回の調査では確認できなかった。8月9日に確認されたコハンミョウ（図6）は、1992年の同所での標本があるだけで、自然遊学館の貝塚産標本として2個体目となった。

ハエ目

キアシキンシギアブ（図7）とハチモドキハナアブ（図8）は、これまで通りに安定して生息していた。ハナアブ科のタカサゴハラブトハナアブとツماغロコシボソハナアブは、自然遊学館にこ

れまで標本がなかった種である。

チョウ目

チョウ類 25 種、ガ類 10 種が確認された。11 月 9 日、サクラの樹幹に生えたハカワラタケにガ類の細長い蓑がぶら下がっているのを見つけ、後に、杉本（2009）の検索表により、ミノガ科のキノコヒモミノガの蓑であることが判明した。



図 2. アキアカネ
2011. 11. 9



図 3. カンタン
2011. 10. 11



図 4. ヤノクチナガオオアブラムシ
2011. 7. 14



図 5. ラクダムシ
2011. 5. 18



図 6. コハンミョウ
2011. 8. 9



図 7. キアシキンシギアブ
2011. 5. 18



図 8. ハチモドキハナアブ
2011. 7. 14



図 9. キノコヒモミノガ
2011. 11. 9



図 10. ミカドジガバチ
2011. 8. 9

考察

今回の調査で印象に残ったことは、トビイロケアリの蟻道の中で共生していたヤノクチナガオオアブラムシや、細長い蓑をつくるキノコヒモミノガなど、千石荘にはまだまだ自分が知らない変わった虫が生息していることが分かったことである。ただ、2005 年と 2006 年の月 3 回に比べて月 1

回調査回数を減らしたことで、調査日以外では当地でカブトムシやヒラタクワガタを確認しているのに、定期調査の記録としては、両種の記録が途切れてしまった。表2は、大阪府レッドデータブックの指定種、および主に里山を代表する種の記録を、これまでの調査と比較したものである。上記の各目の記述とともに、調査努力が異なることも考慮に入れて、ご覧いただきたい(2005年調査：4月から11月まで22回；2006年調査：4月から11月まで24回)。

表2. 千石荘において、1996年、2005年、2006年、および2011年に行われた調査で確認された大阪府レッドリスト種および注目種

項目	目	科	種 ¹⁾	学名	1996年 ²⁾	2005年	2006年	2011年	
大阪府レッドリスト種	トンボ目	イトトンボ科	ベニイトトンボ(準)	<i>Ceragrion nipponicum</i>		○	○		
		トンボ科	ナニワトンボ(準)	<i>Sympetrum gracile</i>	○		○		
	バッタ目	バッタ科	クルマバッタ(要)	<i>Gastrimargus marmoratus</i>	○				
注目種	トンボ目	トンボ科	アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>		○	○	○	
		バッタ目	マツムシ科	マツムシ	<i>Xenogryllus marmoratus</i>	○	○	○	○
			バッタ科	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>		○	○	○
				シウリヨウバッタモドキ	<i>Gonista bicolor</i>	○	○		
	カマキリ目	ヒメカマキリ科	サツマヒメカマキリ	<i>Acromantis australis</i>			○		
	カメムシ目	キンカメムシ科	オオキンカメムシ	<i>Eucorysses grandis</i>		○			
	アミメカゲロウ目	クサカゲロウ科	アミメクサカゲロウ	<i>Nacaura matsumurae</i>		○	○		
		ラクダムシ科	ラクダムシ	<i>Inocellia japonica</i>				○	
	コウチュウ目	ハンミョウ科	コハンミョウ	<i>Cicindela specularis</i>				○	
		クワガタムシ科	ヒラタクワガタ	<i>Serrognathus platymelus</i>	○	○	○		
		コガネムシ科	カブトムシ	<i>Allomyrina dichotoma</i>	○	○	○		
	ハエ目	ハナアブ科	ハチモドキハナアブ	<i>Monoceromyia pleuralis</i>		○	○	○	
	チョウ目	シロチョウ科	ツマキチョウ	<i>Anthocharis scolymus</i>		○	○	○	
		シジミチョウ科	ミズイロオナガシジミ	<i>Antigius attila</i>				○	
	ハチ目	コシブトハナバチ科	ニッポンヒゲナガハナバチ	<i>Tetralonia nipponensis</i>			○		
		ミツバチ科	ニホンミツバチ	<i>Apis cerana</i>				○	

1) 和名の後の(準)および(要)はそれぞれ、大阪府レッドデータブック(大阪府、2000)における準絶滅危惧、および要注目であることを示している。

2) 石井ほか(1997)より。

謝辞

樹木の同定をしていただいた上久保文貴氏と湯浅幸子氏に謝意を表する。

参考文献

石井 実・青柳正人・岩崎 拓・中谷至伸・上田達也(1997) 貝塚市千石堀城址周辺の昆虫。「貝塚市自然環境調査報告書(1996年度)」、pp. 31-46、貝塚市立自然遊学館。

岩崎 拓(2006) 千石荘の昆虫Ⅰ. 貝塚の自然 第9号：1-11。

岩崎 拓(2008) 千石荘の昆虫Ⅱ(2006年度調査). 貝塚の自然 第10号：24-35。

岩崎 拓(2012) 千石荘の自然. 自然遊学館だより No. 62：1-4。

環境庁(1997) 都道府県別メッシュマップ 27 大阪府. 36pp.、環境庁自然保護局計画課自然環境調査室。

大阪府(2000)「大阪府における保護上重要な野生生物 -大阪府レッドデータブック-」. 442pp.

杉本美華(2009) 日本産ミノガ科のミノの形態(2). 昆虫(ニューシリーズ) 12(1)：17-29。

付図

毎月の調査後すぐに、自然遊学館の玄関横の掲示板に、調査結果を速報として貼りだした。それらを付図として掲載した。

「千石荘」昆虫調査速報（2011年4月）

2011年4月26日 天候：くもり 調査者1名

コナラやアバマキの新葉が開いてきました。クサイチゴの白い花が目立ちます。サルトリイバラの小さい花もよく見ると可憐だったりします。屋間なのにクビキリギスが鳴いていて、完全に春になったと感じました。



雑木林の景観



クサイチゴ



サルトリイバラ

チョウ目 チョウ類5種

キチョウ、ツマキチョウ、モンシロチョウ、テングチョウ、ツバメシジミの5種を確認しました。この中ではテングチョウが多く、その他はちらほらという感じでした。昨年の12月以来の久々の調査で、撮影の動がにぶっていて、良い写真が撮れませんでした。

バッタ目など

クビキリギス、ヤブキリ幼虫、カヤヒバリ幼虫、ツチイナゴ、オオカマキリ幼虫、ナナフシモドキ幼虫を確認しました。クビキリギスとツチイナゴは成虫で冬を越したものです。カヤヒバリは成虫になっても形態だけではキンヒバリと区別が付きません。遊学館で飼育して、6月15日に成虫になり、鳴き声でカヤヒバリだと同定できました。言葉で表現するのは難しいですが、キンヒバリの方が連続音の部分が長いので（美声なので）、区別することができます。

カメムシ目

右の写真はクスノキハクボミフシという「虫こぶ」です。この名前は虫こぶ（ゴール）の名前です。クストガリキシラミ（←虫自体の名前）がクスノキの葉につくる虫こぶです。虫こぶの名前はたいてい、植物名+植物の部位+虫こぶの形+フシという順序になっています。ニッケイハミヤクイボフシという虫こぶも採集しました。



クスノキハクボミフシ

「千石荘」昆虫調査速報（2011年5月）

2011年5月18日 天候：はれ 調査者1名

先月に花を咲かせていたクサイチゴには、もう赤い実が成っていました。セイトカアワダチソウ、ヨモギ、オオバクサの丈が高くなり、クズやヤブガラシなどの蔓も伸び出しました。花で目立つのはノイバラとハリエンジュの白い花です。牛神池では外来種のエフクレタヌキモの黄色い花が目立つようになってきました。

チョウ目 チョウ類11種

ナミアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、モンキチョウ、モンシロチョウ、ヒメウラナミジャノメ、サトキマダラヒカゲ、クロヒカゲ、クロコノマチョウ、コムシジの11種を確認しました。4月の5種から種数がほぼ倍になりました。20年前は珍しかったナガサキアゲハも普通種になりました。

アミメカゲロウ目

ラクダムシ、ヨツボシクサカゲロウなどを確認しました。ラクダムシは右の写真のように、やや風変わりな外見をしています。遊学館所蔵の標本はこれまで、蕎原の1個体だけでしたが、千石荘にもいることが分かりました。



ラクダムシ

バッタ目など

キンヒバリとカヤヒバリの鳴き声を聞きました。鳴いているからには翅があるということで成虫なのです。春に鳴く虫もいるのです。でもジューーとうるさく鳴くクビキリギスと違って、この2種の鳴き声はか細いものです。その他、ヤブキリ、オオカマキリ、ヒメクロゴキブリの幼虫を確認しました。

カメムシ目など

4月に紹介したアリの巣にすむヤノクチナガオアブラムシは成虫になっていました。といっても体サイズが変わっただけですが、多くのホソコハネナガカメムシが腹部の突起をネザサの葉に打ち付けて、かすかな音を出していました。

ハエ目、その他

金ピカのハエ、キアシキンシギアブは千石荘では普通種です。その他、遊学館に標本がないものとして、トゲハラヒラセクモソウムシ、ナミガタチバタムシ、シロスジゲナガハナバチなどを採集しました。



キアシキンシギアブ

「千石荘」昆虫調査速報（2011年6月）

2011年6月15日 天候：くもり/はれ 調査者1名

ドクダミとヒメジョオンの白い花が目立ちます。水田では田植えが始まりました。昆虫が増えたので、それを狙うカナヘビやササグモが葉上に目立ちます。虫の世界も大変ですが、虫に食われる植物の世界も大変です。セイトカアワダチソウでもアブラムシとグンバイムシに汁液を吸われて成長がとまった株もあります。

チョウ目 チョウ類12種

ナミアゲハ、アオスジアゲハ、キチョウ、モンキチョウ、モンシロチョウ、ヒメウラナミジャノメ、サトキマダラヒカゲ、ヒメジャノメ、ツマグロヒョウモン、コムシジ、アサマイチモンジ、ツバメシジミの12種を確認しました。

バッタ目

5月と同じくキンヒバリとカヤヒバリの鳴き声を聞きました。コロギスの写真を撮ることができました。これらはいずれも幼虫で冬を越します。卵で冬を越したヤブキリ、ヒメギス、キリギリスはまだ幼虫でした。



コロギス

カマキリ目など

オオカマキリの幼虫とチョウセンカマキリの幼虫を確認しました。オオカマキリの幼虫18個体のうち2個体にカマキリヤドリバエという寄生バエの卵が産み付けられていました。



オオカマキリ幼虫

ヤドリバエの卵

ハチ目・ハエ目

右の写真はアカスジチュウレンジです。幼虫はバラ類の葉を食べます。その他、ハチ目ではアリ類を7種確認しました。ハエ目では、遊学館に標本がなかったツマグロコシボンハナアブを採集しました。



アカスジチュウレンジ

カメムシ目

冒頭でのべたアブラムシはセイトカアワダチソウヒゲナガアブラムシです。身近な虫では一番名前が長いでしょう。これは茎に付き、アワダチソウグンバイは葉から汁液を吸います。セイトカアワダチソウも大変です。



セイトカアワダチソウヒゲナガアブラムシ

付図1（左上）. 千石荘昆虫調査速報（2011年4月）

付図2（右上）. 千石荘昆虫調査速報（2011年5月）

付図3（左下）. 千石荘昆虫調査速報（2011年6月）

「千石荘」昆虫調査速報（2011年7月）

2011年7月14日 天候：はれ 調査者1名

正午の日陰の気温が36.0℃と暑い季節になりました。ニイニゼミとアブラゼミの鳴き声が聞こえます。キリギリスとヤブキリも成虫になり鳴き始めました。虫たちは元気に活動し、自分は夏バテで体力が落ちていく一方なので、ますます写真が撮りにくくなりました。

チョウ目 チョウ類11種

ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、キチョウ、モンシロチョウ、ヒメウラナミジャノメ、クロヒカゲ、ヒカゲチョウ、コムシジ、ヤマトシジミ、イチモンジセセリの11種を確認しました。

ハエ目

樹液の出るクヌギの周りをハチモドキハナアブが飛んでいました。姿もそうですが飛び方もハチの仲間をまねしているようです。クヌギの幹表面にこの種と思われる蛹がいくつか付いていたので採集し、現在飼育中です。



ハチモドキハナアブ

カメムシ目

セミの2種を含む19種が確認され、目別では最多の種数です。右の写真はこれまで遊学館に標本がなかったミカンミドリアブラムシです。ミカンの害虫ですが、その他のいろいろな植物に付き、今回はトバラにいました。



ミカンミドリアブラムシ

バッタ目など

バッタ目は、例えばマダラバッタ、ショウリョウバッタ、ウスイロササキリなど、成虫で確認される種が増えました。カマキリ目はオオカマキリの幼虫だけ、ゴキブリ目はモリチャバネゴキブリだけが確認されました。炎天下で飛びはねるバッタの写真を撮るのは、とても無理でした。

トンボ目

8種のトンボを確認しました。そのうち6種はトンボ科に属します。水田の上空ではウスバキトンボがやや群れていました。牛神池では右の写真のキイトンボやチョウトンボが飛んでいました。



キイトンボ

「千石荘」昆虫調査速報（2011年8月）

2011年8月9日 天候：はれ 調査者1名

正午の日陰の気温が35℃で、地面の温度は50℃を超えています。そんな中、湿度計の横を通り過ぎて行くムネボソアリを見て、アリはさすがに働きの代名詞だけのことはあると感心しました。セミは、クマゼミ、アブラゼミ、ニイニゼミに加えて、1匹だけミンミンゼミが鳴いていました。

チョウ目 チョウ類13種

ナミアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、キチョウ、ヒメウラナミジャノメ、サトキマダラヒカゲ、コムシジ、ベニシジミ、ウラギンシジミ、ヤマトシジミ、イチモンジセセリの13種を確認しました。

バッタ目など

鳴き声を聞いたのはキリギリスだけです。クルマバッタモドキやマダラバッタ、あるいはサトクダマキモドキなどの「春にふ化して秋に成虫になる」種が続々と成虫になってきました。

ウスグモスズという小さなコオロギはこれまで市内で、市民の森公園でしか採集されていっていませんでしたが、今回、千石荘でも確認することができました。

カマキリ目はまったく見ませんでした。成虫になる前は姿を見かけなくなる時期があります。



クルマバッタモドキ



サトクダマキモドキ

コウチュウ目

コハンミョウは1992年以降の確認となりました。図鑑には「平地の普通種」と書いてありますが、なかなかお目にかかりません。クヌギの樹液にはコクワガタやカナブン、シロテンハナムグリが来ていました。



コハンミョウ

ハチ目

右のミカドシガバチは体長29mmでした。大きなアゴでチョウやガの幼虫を狩ります。狩るのは自分の子どもたちのためです。普通種ですが、遊学館には標本がありませんでした。



ミカドシガバチ

「千石荘」昆虫調査速報（2011年9月）

2011年9月22日 天候：はれ 調査者1名

涼しくなり、鳴いているセミはツクツクボウシの一種だけになりました。鳴く虫のメンバーはバッタ目を中心に代わり、マツムシ、クサヒバリ、カンタン、カナタタキ、エンマコオロギ、ツツレサセコオロギなどが鳴き始めました。

チョウ目 チョウ類9種

ヒメウラナミジャノメ、ヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲ、コムシジ、ゴマダラチョウ、ウラギンシジミ、ヤマトシジミ、イチモンジセセリ、チャバネセセリの9種を確認しました。ガでは前翅を丸めて止まっていたマルバネフタオが自然遊学館に標本がない種でしたが、撮影後に逃げられてしまいました。



マルバネフタオ

バッタ目など

バッタ目は19種が確認され、全種数の約3分の1を占めました。そのうち鳴き声だけで確認できたのは10種でした。林縁に棲むクサヒバリは鳴き声が美しく、姿も繊細な感じがします。千石荘ではカンタンとヒロバネカンタンが共に生息しています。カンタンの方が鳴き声が連続的で、美しく聞こえます。



クサヒバリ

ハエ目

ヤブガラシ、タンキリマメ、ヤブマメ、アレチヌスビトハギ、ツユクサなどの花が目立ち、ハチに交じって小さなハエたちも来ています。でもほとんど種名が分かりません。やっと分かったのはヤブクロシマハエでした。



ヤブクロシマハエ

ハチ目

先に述べたようにハナバチ類の活動が目立ちますが、雑木林の樹液にはオオスズメバチが集まっています。繁殖シーズンの秋には、彼女たち（働きバチ）の気が立っているので、なるべく近づかないようにしてください。



オオスズメバチ

付図4（左上）. 千石荘昆虫調査速報（2011年7月）

付図5（右上）. 千石荘昆虫調査速報（2011年8月）

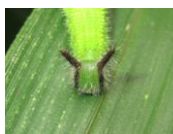
付図6（左下）. 千石荘昆虫調査速報（2011年9月）

「千石荘」昆虫調査速報（2011年10月）

2011年10月11日 天候：くもり／はれ 調査者1名
 水田の一部では稲刈りが始まりました。草むらではススキの穂が美しく、秋も半ばにさしかかりました。コオロギやキリギリスの仲間の鳴く虫たちが屋間から鳴くようになりました。セイタカアワダチソウの黄色い花には、たくさんのおエやハチが集まっています。

チョウ目 チョウ類9種

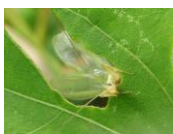
ナミアゲハ、キチョウ、モンシロチョウ、クロコノマチョウ、ヒカゲチョウ、ヒメジャノメ、ツマグロヒョウモン、ウラギンシジミ、チャバネセセリの9種を確認しました。成虫で越冬するクロコノマチョウは成虫が出現していましたが、まだ幼虫でいるものもいました。幼虫は一度おぼえると忘れられない顔をしています。



クロコノマチョウ幼虫

バッタ目

バッタ目は16種が確認され、全種数の約3分の1を占めました。美声のカンタンがクスの葉の破れた場所から頭を出し、翅を立てて鳴いていました。たまたまいた場所というのではなく、こういう場所が好きなのです。クサヒバリの美しい声も樹上から聞こえます。



カンタン

カメムシ目

ヌルデの一部の枝に「虫こぶ」ができていました。ヌルデシロアブラムシがヌルデにつく虫こぶの名前を「ヌルデミミフシ」といいます。ハゼアブラムシはアミメアリと、ヤノクチナガオアブラムシはトビイロケアリと一緒に、組み合わせがあるようです。



ヌルデミミフシ

コウチュウ目

コクワガタがクヌギの樹液に来ていました。この時期に栄養をたくわえて、冬を越します。オオスズメバチがさかんに写真撮影の邪魔をしにきます。この時期の樹液まわりの撮影は大変です。



コクワガタ

「千石荘」昆虫調査速報（2011年11月）

2011年11月9日 天候：はれ 調査者1名
 稲刈りが終わりました。稲刈りは水田周辺にすむ昆虫にとっても一大イベントで、水田のイネの間にすんでいた昆虫たちは、いっせいに畦の草むらに移動しなくてはいけなくなります。

チョウ目 チョウ類4種

モンシロチョウ、クロコノマチョウ、イチモンジセセリ、チャバネセセリの4種を確認しました。先月、幼虫の顔を紹介したクロコノマチョウの成虫を撮影することができました。夏型は黒っぽい色をしています。この時期に出現する秋型はやや明るい色をしていて、模様がはっきりと見えます。このまま成虫で越冬します。



クロコノマチョウ

チョウ目 ガ類2種

左の写真はフラスズメの幼虫です。頭はどちらでしょうか。右の写真は、ハカウラタケというキノコに付いていた「樂」です。何というガかは分かりません。



フラスズメ幼虫



?

トンボ目

トンボ目はアキアカネのみ確認できました。全国的に減少していると言われるアキアカネですが、千石荘では見ることができます。春に羽化して、夏にどこかの高所に行き、秋に千石荘に来るのです。当日も稲刈り後の水田に、アキアカネが産卵に好きそうな水たまりが残っていました。



アキアカネ

カマキリ目・バッタ目

カマキリ目はオオカマキリの卵囊だけを確認しました。バッタ目は7種で、先月の16種から半減しました。そんな中で、クサヒバリの澄んだ鳴き声だけは樹上から響いてきます。響き渡るといった表現の方がふさわしいくらいでした。



オオカマキリ卵囊

「千石荘」昆虫調査速報（2011年12月）

2011年12月1日 天候：くもり・晴れ 調査者1名
 正午の気温が14℃です。あまり冬を感じません。ここ数年で最も暖かい11月だったせい、本来は春に咲くホトケノザが開花していました。でも虫の数は先月よりかなり減りました。水田脇の草むらだけが虫たちでにぎわっていました。

バッタ目

鳴き声が聞こえるのは、カネタタキだけになりました。クヌギの樹洞にいたオス成虫の写真を撮ることができました。その他、マダラスズ、セスジツクムシ、ウスイロササキリ、ツチイナゴを確認しました。ツチイナゴだけは成虫で冬を越しますが、その他は厳しい冬を迎える前に死ぬ運命にあります。



カネタタキ

ハエ目

この時期の水田脇の草むらには、意外に多くの小さなハエたちがいます。その中では大きな部類に入るヒゲナガヤチバエは、成虫で冬を越します。幼虫は水生で、水田や水路にすみ、モノアラガイ類などの淡水貝を食べます。普通種なのに写真がなかったので、白板上で撮影しました。



ヒゲナガヤチバエ

カメムシ目

小さなカメムシたちも水田脇の草むらに割りに多くいました。オオヨコバイやアサシカスミカメはやや知られた存在ですが、ウスモンミドリカスミカメの名前はあまり知られていません。それは似た種類がいくつかいて、種類を調べるのが難しいからです。口吻が長いのが特徴です。



ウスモンミドリカスミカメ

その他

チョウ類は見ませんでした。虫の写真があまり撮れなかったので、秋を思わせる牛神池の景観と、狂い咲きしたホトケノザの写真を載せました。



牛神池



ホトケノザ

付図7（左上）. 千石荘昆虫調査速報（2011年10月）

付図8（右上）. 千石荘昆虫調査速報（2011年11月）

付図9（左下）. 千石荘昆虫調査速報（2011年12月）